

2016年4月18日

&lt;報道関係各位&gt;

一般社団法人日本化学工業協会

## 第2回 日化協LRI賞： 化学物質が人の健康や環境に及ぼす影響に関する優れた研究受賞者決定

一般社団法人日本化学工業協会（住所：東京都中央区、会長：小林 喜光（株三菱ケミカルホールディングス 会長）、以下「日化協」）は、日化協LRIでの研究者奨励（育成）の一環として、“化学物質が人の健康や環境に与える影響”に関する優れた研究業績をあげた研究者を表彰する「日化協 LRI※賞」を、日本毒性学会（理事長：眞鍋淳）内に設立しています。このたび第2回目の受賞者を次のとおり決定いたしました。

※LRI：Long-range Research Initiative = 長期自主研究活動

審査については、昨年9月から12月末にかけて、日本毒性学会ホームページ上で募集を行い、日本毒性学会内の日化協LRI賞選考小委員会において厳正なる選考を行っていただきました。この結果、推薦をいただいた受賞者1件について、日化協として正式に承認いたしました。



[受賞者] 小椋 康光（おぐらやすみつ）  
千葉大学大学院薬学研究院 教授

[テーマ] 金属化合物の新規化学形態分析法の構築と毒性発現機構解明における応用

[受賞理由] （主に以下2点の業績が評価されました）

- ① 生体に微量に存在する金属は、分析が困難なため、どのような化学形態で代謝、排泄されていくのか、全容が不明のものもありました。受賞者は、誘導結合プラズマ質量分析装置（ICP-MS）とエレクトロスプレーをイオン源とした質量分析装置（ESI-MS）の利点を活かし、相補的に使用する手法を開発し、生体の尿中に排泄されるセレン代謝物を同定する等、優れた実績を残しました。
- ② 従来と比べ1/500～1/1000の試料量でICP-MS分析を可能とするシステムを開発し、培養細胞から得られる微量の試料での分析を実用化しました。本システムは、分析の高速処理化だけでなく、実験動物を代替する分析法として、既に研究に応用されています。

このように、環境毒性学の分野における金属化合物の化学形態分析に関する技術開発で特筆すべき業績があり、毒性学研究的発展に大きく貢献をしたことが今回の受賞理由です。

なお、授賞式は6月下旬に名古屋で行われる日本毒性学会学術年会において執り行われます。

LRIは、国際化学工業協会協議会（ICCA）に加盟している欧州化学工業連盟、米国化学工業協会および日化協の3つの団体によって1999年より運営されているグローバルプログラムであり、化学物質の安全性を向上させ、不確実性を低減させることを目的に、“化学物質が人の健康や環境に与える影響”に関する研究を長期的に支援している自主活動です。日化協では2000年よりLRIを通じた研究支援を行っています。「日化協 LRI賞」は、LRIの認知拡大および理解促進を図るとともに、同分野の優れた若手の研究者および世界をリードするような新しい研究分野を発掘することを目指して設立いたしました。

以上

<本件に関するお問い合わせ先>

報道関係の方：一般社団法人日本化学工業協会

その他の方：

広報部 松本 TEL:03-3297-2555

化学品管理部 水越 TEL:03-3297-2575